

京都民医連看護師キャリア開発ラダー：病院版

定義	レベル		KM版クリニカルラダー	KM版クリニカルラダー	KM版クリニカルラダー	KM版クリニカルラダー	KM版クリニカルラダー
			I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ 助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して 看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実 践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護 を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手 にとっての最適手段を選択しQOLを 高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】	助言を得て患者や状況(場)のニーズをとらえる	患者や状況（場）のニーズを自らとらえる	患者や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	患者や状況(場)を統合しニーズをとらえる	患者や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
		【行動目標】	□患者に必要な身体的、精神的、社会的（生活と労働の視点）、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □患者の状況から緊急度をとらえることができる □患者の病態を科学的に捉えることができる □看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成することができる □患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接することができる □患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得ることができる □守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮することができる □看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接することができる	□自立して患者に必要な身体的、精神的、社会的（SDHの視点）、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、患者の全体像としての課題をとらえることができる □看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成することができる □患者を一個人として尊重し、受容的・共感的態度で接することができる □患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得ることができる □守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮することができる □看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接することができる	□患者に必要な身体的、精神的、社会的（SDHの視点）、スピリチュアルな側面から個性性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる □看護記録を適正な用語を使用し、事実をありのままに記録することを後輩・同僚に指導できる	□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的（SDHの視点）、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□複雑な状況を把握し、患者を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □患者や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	ケアする力	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	患者や状況(場)に応じた看護を実践する	患者や状況（場）の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】	□基準・手順にそって看護技術を正確に提供することができる □患者に対して看護手順に沿ったケアが実施できる □患者に基本的援助ができる □収集した情報から個性性のある看護問題及び看護計画を考えることができる □看護計画に沿った看護実践をし、患者の反応を観察して、正確に記録・報告することができる □実践した看護の評価を行い、必要時看護計画を修正することができる	□患者の個性性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □患者に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □患者の状況に応じた援助ができる □基準・手順に沿った正確な看護技術を状況に応じた安全安楽に提供することができる □医療・福祉制度について知識を深め、在宅療養に向けた看護実践に活かす事ができる □看護の対象を「地域で働き生活している人間」としとらえ、看護実践に活かす事ができる	□患者の個性性に合わせて、適切なケアを実践できる □患者の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □患者の個性性をとらえ、看護実践に反映ができる □カンファレンスを効果的に開催でき、看護計画の修正と問題解決が図れる □安全、安楽な看護実践を後輩指導できる	□患者の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる □看護の質を評価し、より良いケアが提供できるよう職員に指導・援助できる。	□患者の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見（看護および看護以外の分野）を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	患者やその関係者、多職種と連携ができる	患者を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	患者の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
		【行動目標】	□同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとることができる □チーム医療の構成員としての役割を理解し協働することができる □患者を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □ケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □患者を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる	□患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上で、それぞれと積極的に情報交換ができる（院内） □患者・家族、部署のスタッフ、多職種等の関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	□患者の個別的なニーズに対応するために、病院内外の関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □患者とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	□患者がおかれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	□複雑な状況（場）の中で見えにくくなっている患者のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	患者や周囲の人々の意向を知る	患者や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	患者や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【行動目標】	□患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる □家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援することができる	□患者や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる □家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援することができる	□患者や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □患者や周囲の人々の意向の違いが理解できる □患者や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	□患者や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面から患者や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる